子ども・子育て支援事業計画に係る課題について（検討のポイント）

①現計画の課題の検討

現計画に記載されている課題	課題達成に向けた事業実施状況等	調査における関連部分(■アンケート調査 □ヒアリング)	加除修正すべき内容(事務局案)
<p>課題1 私たちの手で、「子育て家庭相互の支えあい」や「地域ぐるみの子育て」の力が強い精華町としていくことが大切となっています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭や家族の様子が変わってきている。 ○ 「地域のつながり」や「地域全体で子どもと子育てを見守る力」が弱まっている。 ○ 「家庭」での子育てを支えるために、「地域ぐるみの子育て」の力を高めていくことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 育児サークル支援(町内 21 サークル) ○ 子育て応援講座「孫育て講座」の実施 ○ 中学生との交流事業 ○ 子育て地域パートナー連絡協議会の運営支援(子育て支援センター事業への協力) <p>■ 近所付き合いについて、「付き合いはほとんどなく、あいさつをする程度」と回答した人 ⇒ 就学前児童の保護者：28.8% 小学校児童の保護者：15.1%</p> <p>■ 子どもの成長に影響すると考えている環境について、「地域」と回答した人(複数回答) ⇒ 就学前児童の保護者：2.6% (「家庭」80.7%) 小学校児童の保護者：51.3% (「家庭」92.5%、「小学校」78.0%)</p> <p>□ 育児サークルに参加してよかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町外から転入してきて不安だったが、子どもも親も友達ができ、地域になじめて心強かった。 ・ 幼稚園の情報や地域の情報など、子育てに限らずさまざまな情報交換ができる。 ・ 子どもにとって信頼できる大人が増えた。地域で子どもを見守り、成長を喜んでもらえる。 	<p>○ 国が「地域少子化対策強化交付金」を創設し、妊娠前から出産後の「切れ目ない支援」が目指されていることから</p> <p>⇒ すべての世代が子育てに関心を持ち、地域で子育てをしていく意識を育てることを目指す。</p>
<p>課題2 「孤立しない・行き詰まらない子育て」のため、すべての子育て家庭に地域社会との関わりあいをつくっていくことが求められます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼稚園や保育所を利用せずに子育てをしている家庭や、転入してきた家庭などの孤立の問題 ○ どの子育て家庭も、子育ての悩みを打ち明けたり、リフレッシュしたり、子育て仲間と交流したりできる時間をもてるようにしていくことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 育児相談 ○ マイ保育所サポート事業 ○ 地域子育て支援拠点事業のひろば型(つどいの広場事業) ○ NP(親支援)プログラム実施(年2回) ○ BP(親子の絆づくり)プログラム実施(年2回) ○ 養育支援訪問事業 <p>■ 相談できる人や場所が「いない/ない」と回答した人 ⇒ 就学前児童の保護者：3.6%(22人) 小学生児童の保護者：6.0%(36人)</p> <p>□ 知り合いがいないと外に出る勇気が出ない。1人でも知り合いがいると全然違うので、子育て中の人が少ない地域には、行政が手をさしのべていくべきだと思う。</p> <p>□ すくすくプレールームを、終日開放してほしい。毎日開いていて、いつでも気軽に行けるのが理想。</p> <p>□ 地域の子育て世代が、集会所等を利用して集まれるような事業をしてほしい。</p> <p>□ 育児サークルに参加してよかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育児中の悩み相談やリフレッシュができた。家にこもらず、外に出るきっかけになった。 	<p>○ NP、BPの目的から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育ての悩みを共有し、子どもとの関わり方を学ぶことで、不安感・負担感を軽減 ・ ファシリテーター(行政)はあくまでサポートの役割であり、ママ同士で助け合う意識を育てる。 <p>⇒ 地域でのつながり作りを見守る行政</p>
<p>課題3 男性も女性も喜びをもって子育てできる、すべての子どもが自分らしく育つことができる地域社会にしていく必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本社会における男女間の不平等が背景にある。 ○ 男性が子育てに関わっていくことを、地域社会全体で応援していくことが必要 ○ 子どもに性別の社会的な立場・役割を押し付けることなく、「自分らしい生き方」を「当たり前」「自分の意思で選びとって」いける地域社会にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 父親も対象となる、子育て支援事業の実施 ・ パパ・ママ講座 ・ パパママ教室 両親編 ・ マタニティーサロン プレママ編 <p>■ 子どもの世話を主にしている人について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「父母ともに」と回答した人 ⇒ 就学前児童の保護者：40.4% 小学校児童の保護者：41.6% ・ 「主に母親」と回答した人 ⇒ 就学前児童の保護者：58.7% 小学校児童の保護者：56.6% <p>■ 父親の育児休業の取得状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「取得した(取得中である)」と回答した人 1.3% <p>□ 小学生の子どもを対象とした親子参加型の事業であれば、父親も関わりやすく、育児参加も進むのでは。</p> <p>□ 父親の育児への関わりが増えてきていると感じる。(幼稚園ヒアリングより)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男女共同参画が進み、「日本社会における男女間の不平等」や「子どもに性別の社会的な立場・役割を押し付けること」は減ってきている印象。 <p>⇒ 育児参加を望む父親は増えていると思われ、さらなる子育て参加への意識づけと、支援が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ワークライフバランスの見直し」

現計画に記載されている課題	課題達成に向けた事業実施状況等	調査における関連部分(■アンケート調査 □ヒアリング)	加除修正すべき内容(事務局案)
<p>課題4 「子育てで頼りになる精華町」として、情報受発信・医療・相談の体制を充実させていくことが求められています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な情報のネットワーク化を進め、情報を「自由に」「いつでも」「すぐに手に入れられる」ことが必要 ○ 救急・夜間を含めた小児科医療の体制の充実と、子育てに関して気軽に相談できる体制の充実が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○ せいか子育て情報誌「SukuSuku」発行 ○ 「子育て応援サイト」運営 ○ 広報誌「華創」における子育て支援情報掲載 <p>■ 望ましい子育て支援施策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「子育てにおける経済的負担の軽減」と回答した人 ⇒ 就学前児童の保護者：70.8% 小学生児童の保護者：70.0% ■ 子育てに必要な情報の入手方法 ・ 「市町村の広報やパンフレット」と回答した人 ⇒ 就学前児童の保護者：75.8% 小学生児童の保護者：77.5% □ 情報が入ってきにくく、子育て支援センターのことも、ママ友に聞くまで知らなかった。 □ 情報の入手先：定期健診の際の保健師からの情報、子育て情報誌『SukuSuku』、町HP、ママ友との情報共有、子育て支援センター内の掲示板 □ 1歳半～2歳の時期の検診や相談を、もう少し手厚くしてほしい。 □ 情報提供や発達に問題を持つ子へのフォローなど、子どもが3歳以上になると、急に切れてしまう印象がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「事業実施していること自体を知らなかった」という声から ・ 個人向けの情報提供には限界も。 <p>⇒ 子育てをしている人が、必要な情報を必要ときに得ることができる、広く情報発信する環境の整備を目指す。</p>
<p>課題5 多様な保育ニーズ、一人ひとりの子どものニーズに柔軟に対応できるように、保育サービス等を充実させていくことが求められています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者の就労と育児の両立を柔軟な対応で支援する保育サービスを中心に、その充実が必要(一時預かりなどの不定期の預かり、土日や学校長期休業中などの保育、病児・病後児の保育、放課後児童の預かり、障がいのある子どもへの対応など) ○ アレルギーを持つ児童への対応強化など子ども一人ひとりのニーズに丁寧に対応していくことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 病児保育の実施(病後児保育のみ実施からの拡充) ○ 家庭的保育の実施 ○ 放課後児童クラブの分割及び民営クラブの新設 ○ 放課後児童クラブの延長利用(19時まで)の実施 <p>■ 土曜日の定期的な教育・保育の利用を希望する人 35.7%</p> <p>日曜日・祝日の定期的な教育・保育の利用を希望する人 18.3%</p> <p>■ 幼稚園を利用している人の、長期休暇期間中の教育・保育の利用を希望する人 62.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 急な用事の際に、半日程度預けられる場所がほしい。 □ 仕事をしながら幼稚園に通わせる家庭をフォローするような、サービスがあるとよい。 □ 子育てで最も困ることは、①自分や子どもが病気になった時の対応 ②長期休暇中の対応 である。 □ 働いている人は、子どもに教育を受けさせたくても、保育所しか選択肢がない。子どもが大きくなるまで家にいたいなら、幼稚園しか選択肢がない。幼稚園と保育所の両機能を持つ施設があれば理想的。 □ 放課後児童クラブについて、早朝や夜など、延長利用の希望多数 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども・子育て支援新制度の考え方から ・ 子育て支援メニューを充実させ、子育てをする人自身が選ぶ。行政は、適切な利用を支援するために、利用者支援窓口等を整備する。 <p>⇒ 子育てをする人・子ども一人ひとりに、それぞれのニーズによって、自由に子育て支援を受けることができる環境を整備する。</p>
<p>課題6 子どもがのびのびと遊べる安全な公園や、親・子などが気軽につどい交流できる場所が身近に求められています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安心して子どもを遊ばせておける公園や広場、親・子などが気軽に交流できるサロン、天候に左右されず利用できる屋内の遊び場などが望まれている。 ○ 子どもが使う施設や学校、子どもがよく通る道路などについて、交通安全の確保や防犯対策が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域子育て支援拠点事業のひろば型の充実(1ヶ所→2ヶ所) ○ 保育所園庭開放 <p>■ 遊び場で困ること・困ったことで、「雨の日に遊べる場所がない」と回答した人 44.0%</p> <p>■ 子どもと外出する際に困ること・困ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩道や信号がない通りが多く、安全面で心配 13.2% ・ 暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪被害にあわないか心配 11.4% <p>□ 小学生に限らず、子どもたちが安全に、強制されずに過ごせる「居場所」を町内に作ってほしい。</p>	

②新たに追加等を検討すべき課題

新たに追加を検討すべき項目		調査における関連部分(■アンケート調査 □ヒアリング)	追記すべき内容 (事務局案)
社会的養護	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭への支援 ・虐待に関すること ・子どもの貧困に関すること 	<p>■ 就学後や子どもが多い家庭・母子家庭への子育て支援金を増やしてほしい。</p>	<p>○特別な支援を必要とする子どもを含む、すべての子どもが健やかに成長できる環境を整備する。</p>
[子ども・若者プランの柱①] すべての子ども・若者の健やかな成長を支援する	<ul style="list-style-type: none"> ① 子ども・若者の自己形成の支援 ② 社会形成・参加支援 ③ 相談体制の充実 ④ 職業的自立・就労等支援 		
[子ども・若者プランの柱②] 困難を有する子ども・若者やその家族を支援する	<ul style="list-style-type: none"> ① ニート、ひきこもり、不登校の子ども・若者への支援等 ② 障がいのある子ども・若者の支援等 ③ 非行・犯罪に陥った子ども・若者への支援等 ④ 子どもの貧困問題への対応 ⑤ 困難を有する子ども・若者の居場所づくり ⑥ 外国人等特に配慮が必要な子ども・若者の支援 	<p>□ 特別な支援が必要な子どもについて、幼稚園での様子等を町役場と幼稚園で共有する場を設けることができれば、子どもにとって、より細やかな支援ができると思う。</p> <p>□ 子どもが3歳未満のうちは、発達に問題を持っている子どもへのフォローが手厚いが、幼稚園に入園すると、フォローが急に切れてしまう印象がある。</p>	
[子ども・若者プランの柱③] 子ども・若者の健やかな成長を社会全体で支えるための環境を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭、学校及び地域の相互の関係の再構築 ・ 中学生、高校生の放課後の居場所づくり ・ 家庭教育支援 		